

令和7年度 第1・2回原子力災害医療研修「甲状腺簡易測定研修」(福井大学)

受講者アンケート報告書

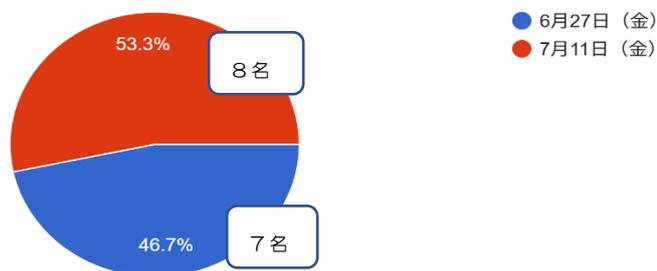
2025年7月16日作成

アンケート集計担当者：徳原

1. 研修日時： 第1回目：6月28日(金) 第2回目：7月11日(金)
2. 開催場所： 臨床教育研修センター・トレーニングルーム
3. 研修参加者： 第1回目：10名 第2回目：8名
4. アンケート回収人数：15名(有効回答率83.3%)
5. アンケート結果

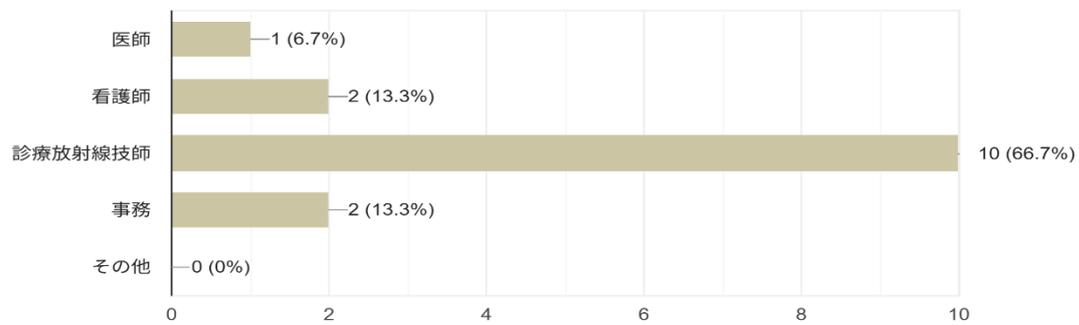
受講日を選択してください

15件の回答

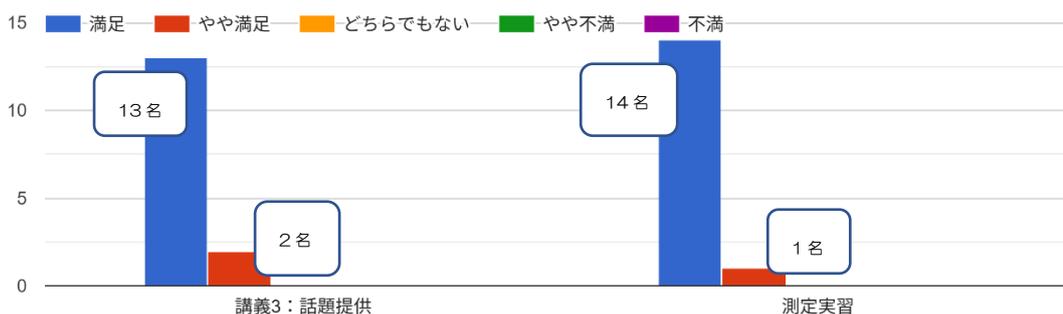


専門をお選びください(複数選択可能)

15件の回答

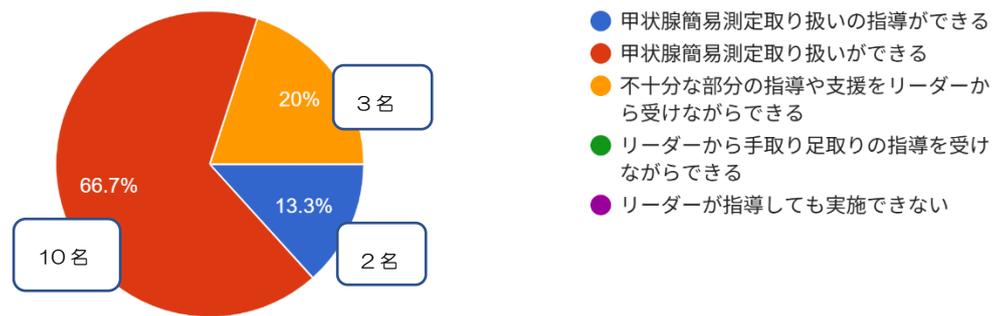


研修内容について入力ください



研修を受けて、甲状腺簡易測定はどのくらいできそうですか

15件の回答



上記で回答された理由を教えてください

- ・1人で測定ができました
- ・ある程度の方法等は今回の研修で実施可能だがイレギュラーが出ると対応できるが不安点である。
- ・十分に理解できました。
- ・測定自体はできると思うから
- ・期間が空いたらできるかは不安だが、指導があればできそうです。
- ・大事な部分で指導者のかたのコメントがあり、分かりやすかった。しかし、例外の一定線量を上回るときの対応時など、すぐに実践するには個人的に知識を深めたいと思うから。
- ・測定に関する機器の取り扱いには十分に実習で確認することができた。患者さんとの接する部分で声掛けをしながらの測定が難しいと感じた。
- ・自分で計測する事は可能だが、経験不足だと思うので教える立場になる事には迷いがある。
- ・今後の自施設での講師活動に活かせそうです
- ・現時点では、一連の流れは習得出来たと思います。
- ・機器の取扱いは、比較的簡単なため
- ・測定は自分でできそうだが、指導するとなると自信がないから。
- ・e-learning と講習会が充実していたから。
- ・初めての受講だったので、指導まではできなと感じた

本研修の感想をお聞かせください

- ・実際に長い時間測定させてもらったので、かなり身についたと思います
- ・時が経つと忘れてたりしそうなので、定期的にフォローアップさせて欲しい。
- ・リスクコミュニケーションの導入されて、良かったです。
- ・リスクコミュニケーションの時間はとても有意義でした。ただ、事前のweb 講義からの時間が経ちすぎたため、あやふやな知識のまま臨まなければいけないのが残念でした。web 講義に期限を設けるのは構いませんが、前日や当日のAM中に見返せるようにして頂けると、より良い講義になるのかなと感じました。
- ・丁寧に教えていただきわかりやすかったです。
- ・コミュニケーションのシミュレーションは本気でやっておくと良いと思いました。
- ・色々な場面があるな、と勉強になる反面、定期的な修練か自分で知識を定期的に振り返らないと実践が難しい様にも感じました。
- ・頂いた資料をしっかりと読んでおきたいです。
- ・非常にわかりやすい説明で、簡易測定に必要な実技だけでなく声かけに必須なリスコミを学べたのがよかった。

- ・配役を決めた練習は初めてだったので経験できて良かった。
- ・話題提供がおもしろかったです
- ・「被ばく者が実際にどう感じるか」というのはこれまで深く考えたことがなかったので、すごく新鮮でした。被ばく者に寄り添った考え方の大切さを学びました。
- ・分かり易く指導して頂き有難う御座います。
- ・定期的に測定器にも触れて、今回得た知識を維持していきたいと思います。
- ・異なる線源を用いて甲状腺簡易測定を実体験できるのは、とても有意義でした。
- ・ディスカッションも実習も楽しく受講させていただきました。講師やスタッフの方々には分かりやすく説明していただき、また参加したいと思うとともに、職場の同僚にも受講を勧めたいと思いました。
- ・もう少し実習時間が長くても良かったと思います。
- ・講義は分かりやすく丁寧に説明してくれ、実習もその都度アドバイスがもらえて学びになりました

以上

R7年度甲状腺簡易測定研修（福井大学） R7.6.27 7.11 振り返りのまとめ

	スタッフ振り返り・意見	オブザーバーご意見	話し合った内容・改善点
<p>講義3 (話題提供)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間数が足りないと感じられ、45分から60分に変更することも検討。 ・ロールプレイで補助講師が関与した方が良かったのか迷った。 ・ファシリテーターが各グループにいても良かったのかもしれない。 ・受講生からの振り返りの時間を設けても良かった。 ・また受講生へのフィードバックを行うと良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供はリスクコミュニケーションを題材とする講義と演習（一対一）でした。題材・内容として特にコメントはありませんが、演習は時間配分が難しいため、演習のシナリオ（題材）を1つくらいにすることが大切かもしれません。もしくは、幅広いシナリオを採用されるのであれば時間を長くすることが必要と感じました。 ・最後に講師・受講生間での振り返りも欲しいと感じましたので、もう少し時間的余裕が欲しいと感じました。 ・同様のプログラムを福島医科大学が行っていますので、参考にされては如何でしょうか。福島医科大学は、全ての研修内容（目的）が他センターと異なっていると感じています。理由は長谷川先生他自身が福島事故時に受けた心の問題を重要視されているからと推察します。そのような背景から、住民（被災者）への対応を大切にされています。（大切な対応と感じていますが、心の問題は個人で異なりますので、対応が難しいとも感じています。） ・現プログラムの目的とは大きく異なりますが、リスコミなど市民への対応が大切と感ぜられます。支援する立場ではなく、被災された方々の思いを知らないと適切な支援はできないと感じられているのだと思います。ご参考まで。 ・リスクコミュニケーションの講義とグループワークは、非常に興味深いプログラムであった。グループワークの時間が若干短いため、受講者の理解が深まることができたか不明ではあるが、重要な取組であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回のロールプレイにて時間が足りなく、受講生からの声を聞けなかったが、2回目では講師が時間調整を行い受講生の声を聞くことができ受講生の振り返りができたと考えるが、時間的余裕がなかったため、話題提供の時間を60分に増やすことを検討する。 ・来年度も話題提供は受講生からの満足度も高く、リスコミを継続していく方向で検討していく。
<p>実習 (計測実習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助講師に、受講生グループについて指導してもらった時と、人形のそばで指導してもらった時など指導する場所を明確に伝えた方が良かった。 ・養生に関して、実習前の話し合いの結果ラップは使用せず、ガーゼで実施した。今後はガーゼで実施していくなど統一した方が良いか？ ・テキストの内容を補助講師に説明を行うことで、人形毎の設定をより理解してもらうために事前打ち合わせを充実させることも必要と感じた。 ・今は受講生が交互に測定実習をしたが、受講生1人1人がそれぞれの人形を測定できるようにすると良いか。 ・全身の人形もあると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初にNaIシンチレーションサーベイメータ（NaIとします）の取り扱い及び甲状腺被ばく線量モニタリングの説明及び注意事項についての講義と、人形を使用した測定実習でした。 ・空間線量率を測定するNaIの特性から、検出器と線源が非常に近い場合、線量率のばらつきが出る（シンチレータのLotの違いによる？）可能性があります。（空間線量率測定の配置で校正されているため、私見です） ・今回の実習（う）で採用されました「空間線量率：0.2μSv/h以上」の設定に関して、アライメント（線源と検出器の配置）により線量計のバラツキが出ることを確認されることをお勧めします。 また、空間線量率は基本屋外と屋内の定点で観測することが基本としており、今回の設定（シナリオ）は無理があるかなと感じましたし、検査場所の選定では、空間線量率がギリギリや変化する可能性がある検査場所を使用（選定）しないことを注意喚起することも大切と感じました。 ・校正定数に関して、今回全て同じ値を使用されていましたが、NaIに添付されている値を使用されては如何でしょうか？ ・実習事前講義内容は、わかり易く説明されていた。測定実習では、測定検体が5体でやや少なく、測定者も交代でされていたため、実際の実習（経験）としては少ないと感じた。時間の関係もあるが、可能であれば測定と記録者を交代して5体ずつ計測できた方が良いと考える。乳児の検体を用意されていたことは、素晴らしい。 ・室内空間線量率測定（BG）について測定検体ごとに測定されていたが、実習としては、1回限りで良いと思われる。 ・空間線量が0.2μSv/hを越えた場合、会場責任者に報告する設定であったが、報告が2組重なる場合が多々あり、他方の報告と説明が終わるまで待機する時間ロスが発生していた。会場責任者を2名設定する、その場のスタッフを責任者に想定するなど回避可能と思われる。 ・甲状腺の位置同定するために特定数設定を変更してサーベイしていたため、受講者が正しく計測できていた。一度計測を始めると位置を変更することができないため、位置の同定は非常に重要である。 ・実習グループで対応時間に差が生じたため、少しではあるが待機時間が発生していた。測定検体を交代するタイミングを合わせる工夫や講師からの合図が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検出器の養生はガーゼで実施する。 ・校正定数について、BGの測定回数に関してや測定体験人数について、会場責任者をどのように設定するかや、測定を交代するタイミングなどについて、来年度開催に向けて安田先生に相談を行っていく。
<p>総評</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・私が皆さんに意見できる能力もなく、立場でもないと感じています。上記は、私的に気になった点ですので、無視して頂いて問題ありません。 ・長崎大学の宇佐先生は自身が担当する研修に関して、各施設の研修を視察され自施設の問題点・疑問点の解消に努められています。 他施設の研修は参考になりますので、講師をされる方はオブザーバー参加されるとよいのではないのでしょうか。 ・実習で指摘しましたNaIによるバラツキのサンプルデータとして、某施設が所有しているNaIを標準線源（Ba-133）に直付けし、測定した結果（数名の前で測定・確認しています）を添付します。 測定値は0.1μSv/hの桁で優位に変化します。（栗原先生もご存知です。） 測定条件は特定数：30、測定時間は2分以上経過し安定した値です。BGも同様に測定しています。（全てデジタル系TCS-1172です。） 広島大学所有のNaI（デジタル・アナログ全て）でも同現象（高線量率・定線量率で）を確認しています。 ただし、すでに現プログラムは国よりマニュアルも公開され動いていますので公にはしていません。（甲状腺被ばく線量モニタリングに関して、私の知る限りでも数名の先生は多くの問題を抱えていると感じておられます。） ・講義1, 2をeラーニングで行っていたため、研修はスムーズに行われていた。時間の関係もあるが、実際の実習の時間を若干多くする必要があったと思われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県立医科大学の甲状腺簡易測定研修では、リスコミの机上演習を実施していることもありオブザーバー参加を検討していく。